

# 「ドーパミン中毒療養記」

—初稿—

2025/12/9

〈人物表〉

石川 義弘 (32)

しがない独身男性

### 1. 義弘のマンション・寝室（朝）

こぢんまりとした六畳の部屋にシングルベッドとPCデスク。寝室兼、仕事部屋。  
スマホのアラーム。石川義弘（32）、手だけでスマホを探し、アラームを止める。

### 2. 義弘のマンション・洗面台（朝）

スマホ片手に歯磨き中。無精髭が生え放題。  
SNSの縦型動画を次々スクロール。

動画A「お願いです。眉毛がかもめの方、間の毛を今だけ六ヶ月無料で脱毛させてもらえませんか……」

動画B「客席一つだけ。モラハラ大将と二人で食べる神コスパ寿司が気まず過ぎたー」

無表情で見ている義弘、歯磨きを済ませ、体重計に乗る。目盛りを見て、苦い顔で腹をつまむ。

### 3. 義弘のマンション・寝室（朝）

ノートPCで画面の「出勤」ボタンを押下するや否や、ベッドに入り、横になってスマホを開く。

画面には青春部活もののドラマ。熱血教師と生徒ら、野球グラウンドで会話している、

画面の生徒A「俺が野球部を全国に連れて行って見せます」

画面の教師「まだ、愛好会なのにか？」

義弘、見ていると、スマホに社内チャットの通知。

開くと「西川『ごめん、このシート関数どっか壊れてない？ 石川さん確認してもらえる？』」の文字。  
すぐさま「すみません、今タスク詰まっております。。。」

柳さんお願いできますでしょうか?? **mm**」と送ると、すぐさま柳から「了解」のスタンプが押される。

義弘、ドラマに戻って、

画面の生徒A「顧問さえいれば、部になれるのに……」

画面の教師「なら、俺がやる」

生徒たちのざわめく声。

と、スマホに着信。軽く咳払いして取り、

義弘 「はい。はい、お世話になっております。ええ、ええ。はい、引き続き社内で検討中でございます。ええ……」  
ポリポリと目ヤニを掻く。

義弘 「ええ、まとも次第またご連絡いたしますので、ええ。申し訳ありません。はい。はい、失礼します」

義弘、ドラマに戻って、

画面の生徒B 「先生、野球やったことあんのかよ？」

画面の生徒C 「流石にルールくらい知らねえと……」

カキーンという甲高い金属音。柵越えに驚く生徒らと、ドラマを閉じて、再び縦型動画のアプリを開く。

動画C 「社長、社長。どうしてウチの会社って朝はご飯なんです

か？（社長） これね犯罪者の八割以上が朝にパンを……」

動画D 「もしあなたがドーパミン中毒でないなら、この動画は最後まで見られるはずです……」

義弘、無表情で次々スクロールしていく。

#### 4. 義弘のマンション・寝室（昼）

ふて寝していた義弘、ハッと目覚める。

すぐスマホで社内チャットを開き、通知を確認。

柳の「直しておきました」の一件のみ。安堵。

腹の鳴る音。時刻は十二時過ぎ。

#### 5. 中華料理屋（昼）

よくあるこぢんまりとした町中華。盛況な入り。

義弘、寝巻きにカーディガンだけ羽織った姿で、カウンターでスマホ見つつチャーハンを食べている。

イヤホンからは流行りの音楽が薄く漏れている。

スマホ画面。女子高生が踊っている縦動画。

終わるとすぐさま次へとスクロールする。

女性店員の声 「昨日言ったこと、覚えてる？」

厨房の奥、大学生くらいの男女の店員が並んで皿洗いしながら、微妙な緊張感で話している。

男性店員 「……うん」

女性店員 「……本気？」

男性店員「……うん」

二人、皿を洗う手を止めて目配せし合う。

客ら、事態に気づいてシーンとなり聞き耳を立てる。皆、レンゲからそーっとスープ飲んだり麺を啜る手を止めたり、新聞紙からひよっこり顔を覗かせたり。義弘の、勢いよくチャーハンをかき込む音。

女性店員「なら、もう一回言って」

男性店員「え？ 今？」

女性店員「今ここで、もう一回……」

女性店員、じっと見つめる。

男性店員、唾を飲み込む。続いて、客も飲み込む。

二人、しっかりと向き合う。客の視線が集まる。

義弘、スマホをスクロール。別の女子高生。

男性店員「俺さ……」

女性店員「……うん」

男性店員「やっぱり、お前のこと……」

義弘、バツと立ち上がり、イヤホンを片耳外して、

義弘「ご馳走様でしたー」

と、厨房に向かって伝票を差し出す。

義弘、若干店内がシーンとなっているのに気づいて、見回す。イヤホンからうっすら漏れる流行りの音楽。

男性店員、驚いて義弘を二度見。客らも二度見。

男性店員「あ、っはーい……」

と、手を拭ってレジへと駆ける。

客ら、肩を落とす。

女性店員、目を落とす。

義弘、一瞬キョトンするも、分からず、財布を出す。

## 6. 商店街の通り（昼）

男性店員の声「ありがとうございましたー」

と、義弘、中華料理屋の暖簾をくぐり出る。

イヤホンを付け、スマホで先ほどのドラマを見る。

画面の生徒A「先生、現役時代は黒豹って呼ばれてたらしい」

ざわめく画面の生徒ら。

義弘、ドラマをじっと見たまま、歩きスマホで商店街を進んでいく。

隣の牛井屋店員「クーポンです」

と、義弘にクーポン差し出すが、取り合わない。クリップボードを持った人「アンケートご協力お願いします」おばあさん「お兄さん道を教えて欲しいんだけど……」

と、次々立ちかはるが、義弘、さっとかわす。

店主の声「食い逃げだ。捕まえてくれ」

と、叫ぶ飲食店の店主。義弘の横を食い逃げが追い抜いていくが、義弘はスマホに釘付け。

前方から、蕎麦のせいろを山のように重ねた出前の自転車、やって来て、

蕎麦屋の出前「馬鹿野郎、気イ付けろい」

と、出会い頭に転んでしまい、ぶちまける。

義弘、気付かず、ポケットとスマホを見て進む。

画面の教師「事件は部屋で起こってるんじゃない」

画面の教師、片手には金属バット。

義弘、珍しくドラマを見て笑う。

商店街のおばさん「えー、本物？ サインしてー」

俳優 「ごめん今プライベートだからさ」

と、商店街を歩く、教師役の俳優。

小さな人ばかりができていく。

画面の教師「グラウンドで起こってるんだっ」

義弘、気付かず、器用にかわして通り過ぎていく。

路肩に止められた黒いボックスカー。

商店街のおじさん「(義弘に) ちょっとそこの君、助けてー」

と、黒づくめの集団に車に押し込まれているおじさん、必死に叫ぶも義弘、スマホを見ている。

画面では、教師と生徒らがユニフォーム姿でレインボーブリッジを駆けている。義弘、静かに爆笑。

## 7.

### 義弘のマンション・寝室(昼)

デスクに置かれたマグカップのコーヒー。

西川の声「えっと、とりあえずじゃあ今日はそんなところかな」

WEB会議中。カメラはオフ。義弘、リクライニングしながら、ボケっと天井を仰いでいる。

西川の声「石川さんさ、この件リストアップするのってすぐできたりする？ できれば今日中お願いしたいなーなんて」

義弘、腰を上げて、マイクをオン。

義弘「あーはい。ちよつと今、他部署の頼まれごとやってて立て込んではいらんすけど」

西川の声「あー、そうなんだ」

義弘「あ、でもはい。やってみます」

西川の声「ありがと助かるわ。ごめん、次あるから一旦お疲れー」と、会議が切られる。

PC画面のマウスカーソル。静止している。

義弘、一息を吐いて、大きなあくび。

慣れた手つきでPCマウスを何やら円盤上の機器の上に置くと、マウスカーソル、微細に振動し始める。

## 8.

### 義弘のマンション・寝室（夕方）

部屋の電気は消え、PCの画面でぼんやり明るい。

画面のマウスカーソル、微細に振動。

円盤上の機器の上で、小刻みに動いているマウス。

義弘、爆睡している。

と、アラームが鳴る。手だけでスマホを探し、アラームを止める。

暗い中PCに向かい、社内チャットを開く。西川に

「すみません、やっぱり出来ませんでした涙」と、

柳に「こちらもご対応お願いできますでしょうか？

?mm」と送る。柳からすぐ「了解」のスタンプ。

ふと、社内チャットで届いた今月の給与明細を開き、じっと眺める。「差引支給額347,782円」。

「退勤」ボタンを押下し、パタンとPCを閉じる。

真っ暗な部屋にカーテンの隙間から夕日だけが差し込む。義弘、鼻で深呼吸。

ふとスマホを開き、ドラマの続きを見出す。

画面の教師「何してんだよ」

と、試合後、夕暮れのベンチで叫んでいる。

画面の教師「お前さ、それで本気かよ。お前の人生、そんなんでいいのかよ。そんなことするために生まれてきたのかよ」

生徒ら、反抗的な目つき。

教師、一人の胸ぐらを掴み、

画面の教師「ダメだろ。なんで本気で頑張らねんだよ。今頑張ったらよお、一生頑張れるかも知んねえだろっ」

義弘、じっと見ている。

画面の生徒A「何が分かるってんだよ……」

画面の教師「そんなテキストなことするための人生じゃねえだろ  
うがよお。必死で生きろよ。全力で生きろっ」

義弘の目には、ツーンと流れる一筋の涙。

## 9. ジム・外観（夜）

よくある二十四時間ジム。

## 10. ジム・内（夜）

ランニングマシンで汗をかく人々。

その奥、ウエイトコーナーにはジャージ姿の義弘。

義弘 「んっ」

と、今にも沸騰しそうな顔。

重そうなバーベルをスクワットで持ち上げている。

義弘 「んあっ」

険しい表情のまま、一回、二回、三回と続ける。滝  
のような汗が額からドバドバと流れ落ちていく。

義弘 「んあああっ」

と、さらに持ち上げる。限界の表情。

義弘 「んあああああああっ」

と、最後一回持ち上げ切ると、力を振り絞ってバー  
ベルをラックに戻す。

義弘 「はあー、ふああー……」

床に大の字にへたり込んで、肩で息を整える。

どこかやり切った表情。ゆっくりと、息を整える。

11. ジム・入り口(夜)

スタスタとジム内を歩く義弘。

ふと両手を見ると、手のひらには赤いマメ。

義弘、心地良さそうにギュッと握り締める。

外に出ようと、ジムの入り口ドアに手を掛ける。

と、券売機の前で困ってる若い女性客に目が止まる。

出ようか迷った末、

義弘 「あー、それ。先にスマホで会員証タッチしないと」

女性客 「え？」

と、振り返るが、分かっていない。

義弘、仕方なしにやってみせようと、ポケットを探

るが何も入っていない。気づいて、

義弘 「……ロッカーか」

女性客 「え？」

義弘 「……あ、じゃあ、いいですか？」

と、女性のスマホを預かって、代わりにタッチして

見せる。

女性客 「あー、なるほど。ありがとうございます」

と、大袈裟なまでのお礼と、屈託のない笑顔。

義弘 「とんでもないです」

と、一瞬気後れするが、誤魔化してまんざらでもな

い笑み。

12. 義弘のマンション・浴室(夜)

義弘、鼻歌混じりで勢いよくシャワーを浴びている。

どこか満足げな表情でシャンプーをしている。

13. 義弘のマンション・洗面台(夜)

風呂上がり、洗面台で化粧水を塗りたくっている。

ふと、先ほどの笑みを思い出し、顔に浮かべる。

が、無精髭が気になって顎を撫でる。

シェーバーを手に取る。

14. 義弘のマンション・寝室（夜）

真っ暗な部屋。

ベッドの上でスマホで目覚ましをセット。

ドラマの動画アプリを開こうとするが、指が止まる。  
あくび。

スマホを枕元に置いて、眠りにつく。

15. 義弘のマンション・寝室（朝）

アラームの音。手だけでスマホを探し、アラームを  
止める。

16. 義弘のマンション

鏡に映った顔には、すっきりと髭が無くなっている。  
義弘、歯磨きしながら、うっすら笑みを浮かべる。

（おわり）